

1. 世界遺産 元離宮二条城

二条城は1603年（慶長8年）、江戸幕府初代将軍徳川家康が、天皇の住む京都御所の守護と将軍上洛の際の宿泊所とするため築城したものです。

3代将軍家光の時代、後水尾天皇行幸のために城内は大規模な改修が行われ、二之丸御殿にも狩野探幽の障壁画などが数多く加えられました。壮麗な城に、天皇を迎えることで、江戸幕府の支配が安定したものであることを世に知らしめたものです。

1867年（慶応3年）には15代将軍慶喜が二之丸御殿で「大政奉還」の意思を表明したことは日本史上あまりにも有名です。

二之丸御殿、二之丸庭園、唐門など、約400年の時を経た今も絢爛たる桃山文化の遺構を見ることができます。1994年（平成6年）、ユネスコ世界遺産に登録された二条城は、徳川家の栄枯盛衰と日本の長い歴史を見つめてきた貴重な歴史遺産と言えます。

2. 二条城本格修理事業

本市は、2011年（平成23年度）からおよそ20年の歳月をかけ、28棟ある文化財建造物をはじめ、城内全ての歴史的建造物を中心に修理や整備を行います。二条城の文化財としての価値を守り、京都を代表する文化観光施設として観覧者の安心・安全を確保するため、構造補強を含む本格的な保存修理を行っています。

これまでに、重要文化財「唐門」、「築地」、「東大手門」の保存修理工事を完了、2017年（平成29年度）からは重要文化財「本丸御殿」の保存修理工事を行い、2024年（令和6年）3月に完了予定です。本丸御殿の保存修理工事では、照明器具及び障壁画の修理や、唐紙の新調をはじめ、建物の耐震性能を高めるため、鉄骨柱や耐震壁を設置しています。

3. 本丸御殿

(1) 歴史と概要

二条城の本丸エリアは、3代将軍家光の時代に造成され、この時、御殿や天守が建てられましたが、いずれも18世紀後半に市中の大火により焼失しました。幕末には仮御殿が立てられましたが、明治初期に撤去され、空き地となっていました。1884年（明治17年）、二条城は皇室の別邸「二條離宮」となります。それに伴い、この本丸エリアには、1893年（明治26年）から1894年（明治27年）にかけて、明治天皇の命により、京都御所の北側にあった桂宮家の邸宅（桂宮御殿）が移築され、新たに二条城の本丸御殿となりました。

桂宮家は、桃山時代から続く四つの世襲親王家の一つで、最後の当主となった淑子内親王（明治14年没）は、明治天皇の叔母にあたる人物です。二条城への移築が成った本丸御殿を訪れた明治天皇は、主要な部屋に名前を付け、庭の植栽を細かく指示して、現在の本丸庭園が完成しました。

その後、明治・大正時代を通して、東京から京都へ来た皇太子が、本丸御殿を使用し、ここを拠点にして、市内や近畿地方へ訪問（行啓）しました。

幕末に建てられたこの建物は、丸みを帯びた屋根等、宮家の建築らしい柔和な外観であり、その内部は、当時第一線で活躍した京の絵師による優美な障壁画や、職人が制作した唐紙が貼られています。こうした繊細な設えに加えて、明治・大正時代には、絨毯やシャンデリアなどの照明器具等が付け加えられ、明治以降、急速に洋風化していく時代の流れを映しています。宮廷文化の美を伝えるこの建物は、近世後期の宮家の住宅建築として貴重であることから、国の重要文化財（建造物）に指定されています。

(2) 本丸御殿の棟とその用途

〈玄関〉

御殿の出入口であり、訪問者が、御殿の主との対面を前に控えた部屋があります。

〈御書院〉

一の間（上段）、二の間（中段）、三の間（下段）は、訪問者と御殿の主が対面した場所です。

三の間は畳を外すと床板が現れ、ここで能を上演することができる仕様となっています。

〈御常御殿〉

御殿の主の居室や寝室を備える棟です。「松鶴の間」は主の居室、「雉子の間」は主の寝室です。「御納戸」は、主の身の回りの世話をする役目の人が控えた部屋です。

〈台所及び雁の間〉

「台所」は、食事を準備した場所で、その隣にある「雁の間」2室は、家来たちが使用した部屋です。

(3) 関連年表

西暦/和暦	二条城	桂宮御殿
1590年/天正17年		豊臣秀吉により、智仁親王を初代とする八条宮家が創設される。
1603年/慶長8年	徳川幕府初代将軍家康により築城。	
1605年/慶長10年		幕府より京都御所の北側に与えられた今出川屋敷地に、御殿を建てる。
1626年/寛永3年	後水尾天皇の行幸のために城を改修。敷地を拡張して本丸を作り、本丸御殿を建てる。	
1696年/元禄9年		幕府より京都御所の北東側に与えられた石薬師屋敷地に、御殿を建てる。
1709年/宝永6年		先年に火事で焼失した石薬師御殿が再建される。

1788年/天明8年	市中の大火により本丸御殿が焼失。	市中の大火により今出川・石薬師の御殿はともに焼失。
1795年/寛政7年		石薬師御殿が再建される。
1849年/嘉永2年		今出川屋敷地に桂宮御殿が再建される。
1854-55年/嘉永7-安政2年		京都御所火災のため、桂宮御殿が孝明天皇の仮御所となる。
1860年/安政7年		孝明天皇の妹、和宮が桂宮御殿に居住。
1861年/文久元年		和宮、14代将軍家茂に降嫁。
1862年/文久2年		孝明天皇の姉、淑子内親王が11代当主となる。
1866年/慶応2年	この頃15代将軍慶喜のための仮御殿が本丸に建てられる。	
1867年/慶応3年	慶喜が二の丸御殿で大政奉還の意思を表明。	
1868年/慶応4・明治元年	明治天皇が二条城に行幸。城内に太政官代を置く。	
1871年/明治4年	二の丸御殿内に京都府庁を置く。	
1872年/明治5年		桂宮御殿に明治天皇が初めて行幸。以後、明治10年、13年に行幸する。
1881年/明治14年	この頃までに慶喜の仮御殿が撤去される。	淑子内親王が薨去。桂宮家断絶。
1884年/明治17年	皇室の別邸、二条離宮となる。	
1894年/明治27年	二条離宮の本丸に、京都御所北側から桂宮御殿が移築され、現在の本丸御殿となる。	
1895年/明治28年	本丸御殿に、明治天皇が行幸。	
1915年/大正4年	大正天皇即位の大典に伴い、二条離宮は饗宴場となる。本丸御殿は裕仁皇太子が使用。	
1939年/昭和14年	二条離宮が京都市に下賜され、元離宮二条城となる。	

※**赤枠囲み**：企画構成の中で触れていただきたい主な出来事。

(4) 参考写真

車寄せ（玄関）外観



〈御書院〉 三の間から一の間を見る

〈玄関〉 玄関の間・取次の間



〈御常御殿〉 松鶴の間



〈御常御殿〉 雉子の間



〈御常御殿〉 御納戸



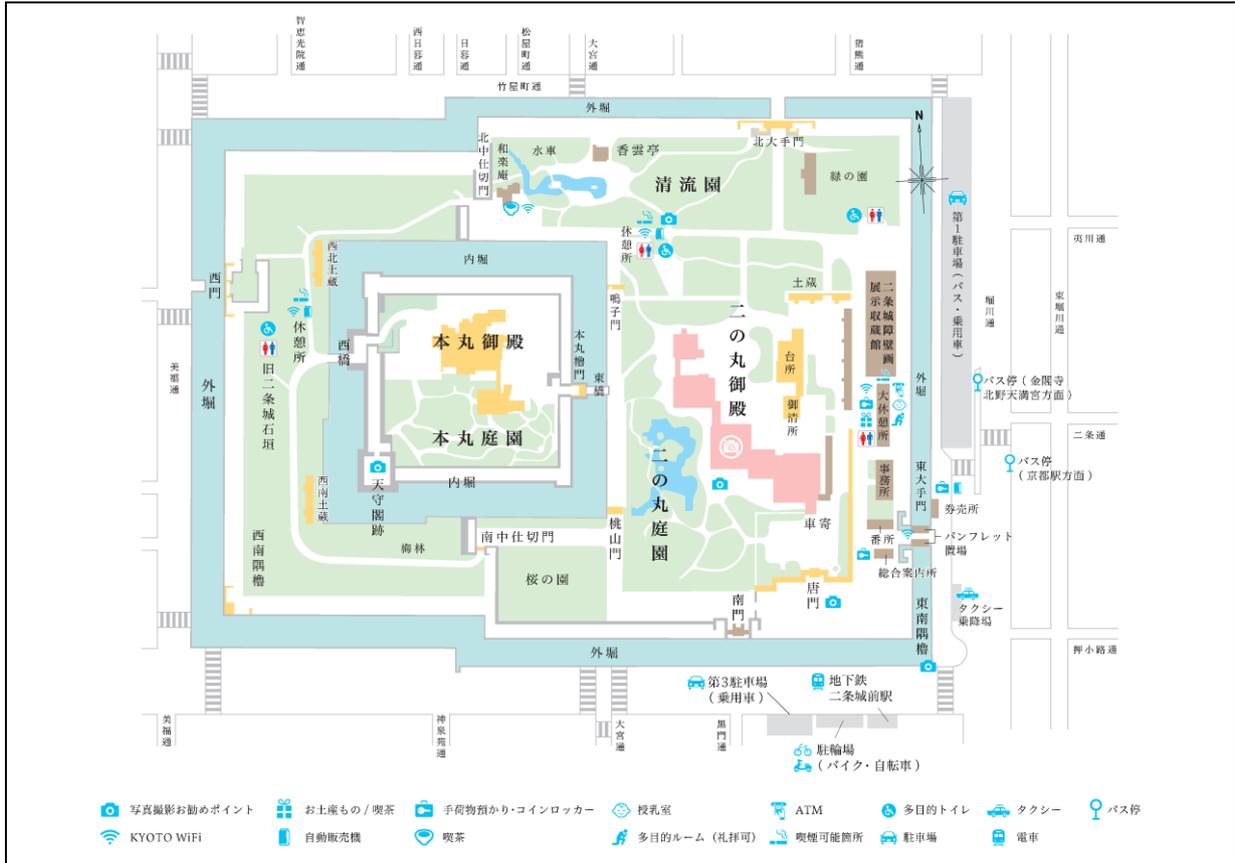
〈台所及び雁の間〉 台所



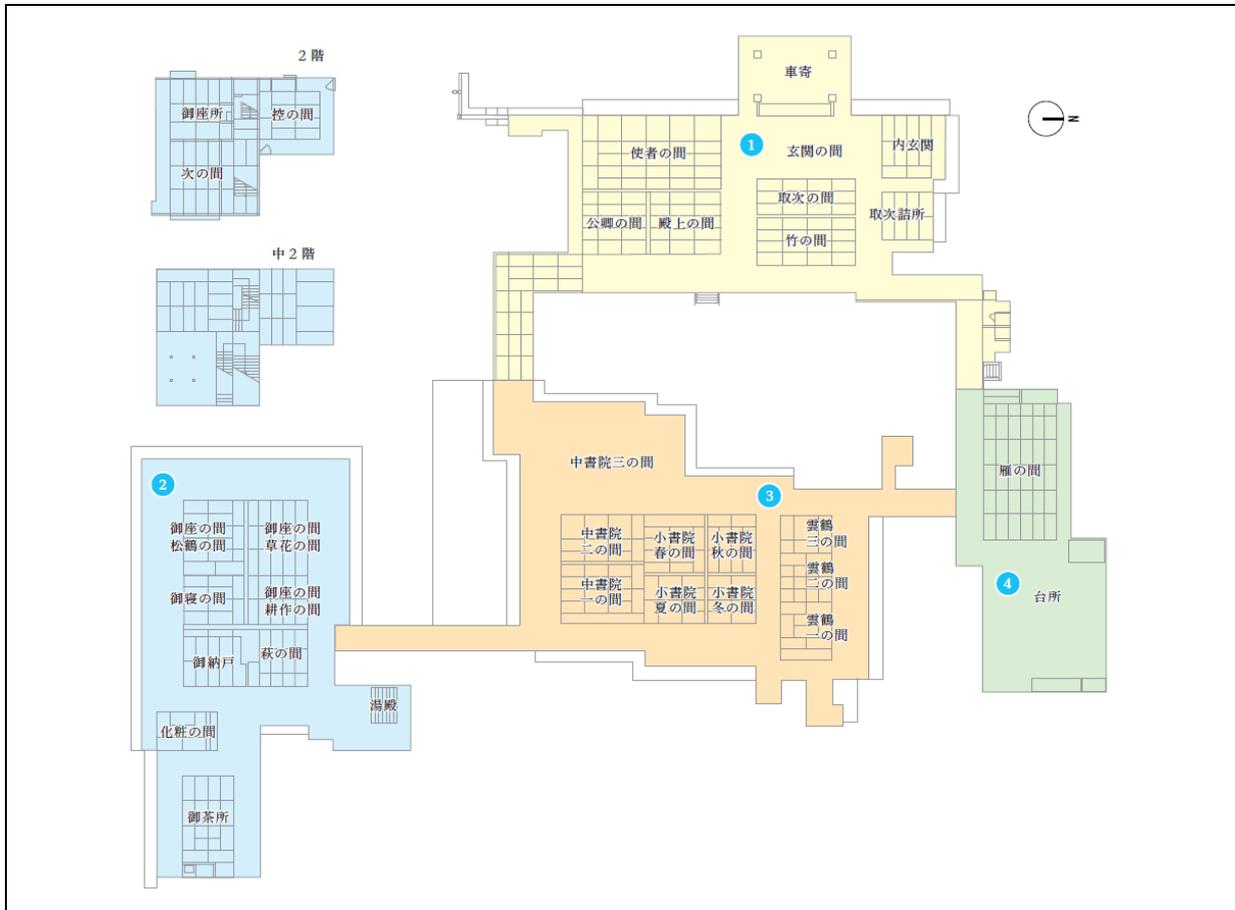
〈台所及び雁の間〉 雁の間



4 二条城 全体図



5 本丸御殿 平面図



6 ガイダンスルームイメージ図

